

クラス	313	担当教員	藤井 啓之
テーマ	子どもの成長・発達を支える学級・学校での指導の在り方について		
著書・論文	『新しい時代の生活指導』（共著） 激増するいじめ・不登校・暴力の原因究明と解決策について		
研究課題等	世界の二極化・部族主義化によるコンフリクトを教育でどう解消するか 道徳教育の内容と方法の体系的理解		
ゼミナール概要			
キーワード：教育病理、いじめ、不登校、学校における暴力、発達障害、学級づくり、集団づくり、道徳教育			
目的、内容、方法、授業計画等：			
さまざまな教育病理について調べながら、子どもたちの成長・発達のゆがみ・もつれの原因について考え、それを学校教育でどのように解決しうるのかを考えます。主として教科外教育（授業以外）を対象としますが、他者の考えを知るという観点から教科の授業や道徳教育についても扱います。 3年ゼミでは、4年生で卒論を書くにあたって各自が探究したい課題を見つけることを目的とします。教育雑誌（主として『生活指導』と『教育』）を読み、さまざまな現代の教育問題を知り、それらに人々がどう取り組んでいるのかについて学びます。4年生になるまでに、卒論で読むべき文献一覧を作成します。 4年ゼミでは、前半は各自が探究したいテーマについて、それぞれ関連文献を読んでゼミで報告し、討論しつつ、卒業論文の構成について考えていきます。4年生ゼミの後半では、実際に執筆した原稿をゼミ内で相互に批判し合いながら、卒論を執筆していきます。			
担当教員からのメッセージ			
大学での学びの醍醐味は、ゼミと卒論だと断言します。ここで身につけた資料の集め方、資料の読みとり方（問題のとらえ方）、他者への伝え方（発表や執筆）などは、大学卒業後、教員になった場合はもとより、それ以外の仕事であっても、仕事の出来・不出来を大きく左右します。 また、卒論に真剣に取り組むことは、単に「物知り」になることということではありません。世界と向き合い、他者と向き合い、自分と向き合うことです。それは、無意識に生きるのではなく、意識的に生きることの訓練だと言ってよいかもしれません。自分を相対化し、一生成長しつづけることの土台となります。卒論への取り組み方が、その人の生き方を決めると言っても過言ではありません。 大学生活でのエネルギーの半分はゼミと卒論に投入するぐらいの覚悟をもってゼミを選んでください。エネルギーを投入した分をはるかに上回る「報酬」が待っています。			